

情報公開文書

研究の名称	Post-ESD coagulationの標準化に向けた止血支援AIの内視鏡介入に関する検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 光学診療部 准教授 藤浪斗
研究の概要	<p>【研究対象者】 2023年4月1日から2023年9月9日の期間に当院で早期胃癌に対するEndoscopic Submucosal Dissectio後に止血処置施行例</p> <p>【研究の目的・意義】 胃ESD後出血はデバイスや凝固装置の改良により頻度は減少傾向にあり、標準的な後出血予防法は露出血管に対して焼灼を施行することで、後出血が60%減少できると報告されています。ただ、後出血はたびたび臨床で経験し、処置をする際の焼灼する血管の選定と焼灼完了の判定は、標準化されていないことが問題としてあります。そこで我々は、焼灼する血管の選定と焼灼完了の判定のPEC操作を支援する人工知能介入に関する検討を行います。</p> <p>【研究の方法】 診療録の情報から後方視的に治療成績について検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2024年10月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、学会発表および英文誌への論文投稿を行います。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>電子診療録より以下の情報を使用します。</p> <p>年齢、性別、既往歴、内服歴、ピロリ感染、病変部位、治療日、処置時間、使用した内視鏡機種、止血方法、偶発症の有無・種類(穿孔、緊急手術)、輸血の有無、再出血率、再出血までの期間、一ヶ月以内の死亡、死因、在院日数</p> <p>本研究では他機関への資料提供は行いません。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究責任者：富山大学附属病院 病院長 林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	研究責任者：富山大学附属病院 光学診療部 准教授 藤浪斗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7301 FAX 076-434-5027 E-mail sshimada@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 第三内科 島田清太郎</p>